

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教短期大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	英語科	夜・通信	2		6	8	7	
	地域こども保育学科	夜・通信			8	8	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考) 学生募集を停止している英語科については、従前の教育課程に基づいて記載している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/ocjc_syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 英語科
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教短期大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/roll_yakuin/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 日本基督教団沖縄教区 副議長	2025.06.11 ～2029.6月	建学の精神担当
非常勤	(現職) 沖縄銀行常務取締役	2025.06.11 ～2029.6月	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沖縄キリスト教短期大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では「シラバス作成ガイドライン」に則り科目担当教員がシラバスを作成する。シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・マップ、また作成ガイドラインに基づき、各項目（授業形態、到達目標、授業の概要、各回の授業計画及び事前学習・事後学習、評価方法・評価基準、DPとの関連性等）について明記している。その際、第三者（短期大学部長、科長、教学支援部長、学科教員間、等）による点検作業を実施し、適正性に欠けるシラバスについては、担当教員へ修正を指示し、適正な内容へと改善を行っている。 シラバスは3月中旬に完成し、ホームページ上で公表している。シラバス活用については、履修登録ガイドと併せてWebシラバスの利用手順を履修登録前の3月下旬にホームページ上に掲載し学生向けに周知している。	
授業計画書の公表方法	https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/ocjc_syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目の「評価方法」として、到達目標に対する学修成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を、シラバスにあらかじめ明示している。 (例：定期試験〇%、課題・授業外レポート〇%、小テスト〇% 等) また各授業科目の「評価基準」についても、到達目標で示した学修成果の到達度を評価する際にどこに着目するのか、具体的で客観的な判断基準として「授業別ルーブリック評価」を導入し、評価項目と評価基準について、初回講義時に学生に説明することとしている。 学則及び履修規程に従い成績評価と単位認定を行うが、成績表示と素点評価、評価内容の基準については、学生便覧やホームページ上で説明している。 学習意欲の把握については、出欠状況管理システムを導入し、出欠情報を一元管理している。また、出欠調査結果を基に、アドバイザーによる学生指導を実施している。 (参考 ルーブリック利用ガイド： https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2025/03/touroku_8_rubric.pdf) (参考 成績評価について： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/ocjc_requirements/#seiseki)	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1. 成績評価と単位認定

成績評価は100点満点で行い、下記の基準により評定する。

判定	成績表示	素点評価	GP	評価内容
合格	秀 A	90点以上	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている
	優 B	80点～90点未満	3	到達目標を十分に達成している
	良 C	70点～80点未満	2	到達目標をある程度達成している
	可 D	60点～70点未満	1	到達目標を最低限達成している
不合格	不可 F	60点未満	0	到達目標を達成していない
	欠 K	—	0	出席不足
合格	認 P	—	—	留学における単位認定の評価 ※GPA対象外とする

2. GPA 制度

学期毎に、全履修科目の単位当たりの成績の平均値（GPA: Grade Point Average）を表示し、以下の計算式によって算出する。

履修科目の換算点の総和／履修科目の単位数の合計

ただし、換算点は〔(科目の単位数) × (その科目で得たグレードポイント)] とする。
小数点第2位まで表記し、第3位を四捨五入する。

＜GPAの対象外科目＞

以下の科目についてはGPA評価の対象としない。

- (1) 入学前の既修得単位を認定した科目
- (2) 協議に基づく他の短期大学又は大学で修得した単位を認定した科目。ただし、本学と同一法人の併設大学を除く
- (3) 外国の短期大学又は大学への留学により単位を認定した科目
- (4) 短期大学又は大学以外の教育施設等で修得した単位を認定した科目
- (5) 転入学時に単位を認定した科目
- (6) 受講免除科目

3. GPA による修学指導 (1) 累積 GPA が 1.50 に満たない場合、アドバイザーによる勧告・指導・助言を行う。 (2) 累積 GPA が 1.00 に満たない者には、学科長は退学を勧告することができる。 ※1. ～3. 関連規程 沖縄キリスト教短期大学履修規程 (成績評価と単位認定) 第 12 条 (GPA 制度) 第 13 条 4. 客観的な指標に基づく成績の分布状況の把握については、「成績分布状況表」(※添付資料)を作成する。 ※添付資料 英語科「成績分布状況表」 地域こども保育学科「成績分布状況表」	
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページ https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/ocjc_requirements/#GPA 成績評価と単位認定、及び GPA 制度について定めた「沖縄キリスト教短期大学履修規程」を学生便覧に掲載している(新入生全員に配布)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 沖縄キリスト教短期大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) キリスト教、平和、沖縄の学びそして他者への奉仕を重んじる本学の建学の精神を理解し、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばすための主体的な学びをすることで、進路先で求められる課題解決に必要な教養と専門の基礎的知識・技能、社会人基礎力を習得した学生に学位の授与を行う。 英語科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) 1. 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。 2. 多文化・異文化に関する理解と国際的な視野を身につけている。 3. 「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「知識・技能」をはじめ社会人にふさわしい教養および専門分野の基礎力と批判的思考力を身につけている。 4. 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(英語)の学位を授与する。	

地域こども保育学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。
2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。
3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。
4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。
5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。

沖縄キリスト教短期大学学則

（卒業に要する単位数）

第12条 卒業に必要な単位数は62単位とし、その内容は次のとおりとする。

- （1）教養教育科目 必修科目および選択必修科目を含む16単位以上
- （2）専門教育科目 46 単位以上

（卒業・学位・教育職員免許）

第30条 本短大に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し所定の単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。卒業の認定及び卒業証書授与は、3月及び9月に行う。

- 2 学長は、卒業を認定した者に短期大学士の学位を授与する。
- 3 学位授与に関する規程は別に定める。

沖縄キリスト教短期大学学位規程

（学位の名称）

第2条 本短大において授与する学位は次のとおりとする。

英語科	短期大学士（英語）
保育科	短期大学士（保育）
地域こども保育学科	短期大学士（保育）

沖縄キリスト教短期大学履修規程

（履修登録）

第4条

3 学期毎の履修可能な単位数は、原則として次のとおりとする。ただし、上限を超えての履修について、所属学科長との面談により承認された場合は、その限りではない。

学 科	上限単位数	備 考
英語科	22	－
保育科	24	実習科目及び実習指導は含めない。
地域こども 保育学科	24	実習科目及び実習指導は含めない。

●「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた上で、所定の単位数を修得した学生に対し、学則第12条、第30条及び学位規程第2条に則り、卒業を認定し学位を授与する。

(※また、履修規程第4条に則り、学期毎の履修可能な単位数の上限を定め、卒業に必要な単位の実質化に努めている。)	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	短期大学 https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_ocjc/ 英語科 https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_eigo/ 地域こども保育学科 https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_hoiku/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教短期大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88
収支計算書又は損益計算書	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88
財産目録	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88
事業報告書	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E6%8E%B2%E8%BC%89%E6%97%A5%EF%BC%9A2021.6.10%E5%BC%89-,%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-2023%E5%B9%B4%E5%BC%88%E6%8E%B2%E8%BC%89
監事による監査報告	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88

告 (書)	
------------------	--

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2025 年度事業計画	対象年度：2025 年度 ）
公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2025/03/c725f811cd6e0ea748d8964ddfd133ee.pdf	
中長期計画（名称：沖縄キリスト教学院第 5 次中長期計画	対象年度：2022 年～2027 年度 ）
公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/0800_tyutyokikeikaku_2022-2027.pdf	

3. 教育活動に係る情報

（1）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho03
--

（2）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： 1001_ocu_hyokahokokusho.2024.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 英語科、地域こども保育学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/mokuteki_ocjc/ ）
（概要） 英語科 教育研究上の目的 （１）英語と日本語によるコミュニケーション能力を養う。 （２）国際理解力を深める能力を養う。 （３）プレゼンテーションに関する能力を養う。 （４）社会に奉仕し平和に貢献できる能力を養う。 地域こども保育学科 教育研究上の目的 （１）キリスト教精神に基づき、創造的で、感性豊かな保育者を養成する。 （２）学生と教師が相互の対話を重視し、人間力を高め合う保育者を養成する。 （３）多彩なカリキュラムを通して、実践力、応用力を身につけた保育者を養成する。 （４）国際的視野を持ち地域に貢献できる保育者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： 英語科： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_eigo/ 地域こども保育学科： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_hoiku/ ）
（概要） 英語科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。 2. 多文化・異文化に関する理解と国際的な視野を身につけている。 3. 「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「知識・技能」をはじめ社会人にふさわしい教養および専門分野の基礎力と批判的思考力を身につけている。 4. 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（英語）の学位を授与する。 地域こども保育学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 英語科： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_eigo/ 地域こども保育学科： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_hoiku/ ）

(概要) 英語科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 1. キリスト教関連科目や、初年次教育を通して、倫理観と行動の規範を養う。 2. 多文化共生、異文化理解、海外研修などの科目により、国際的な視野と教養を育む。 3. 国際観光ビジネス関連科目および教養教育科目により、社会における実務能力、批判的思考力、社会人基礎力を養う。 4. 英語関連科目、日本語表現科目などにより、英語と日本語によるコミュニケーション能力を育み、実用的な語学力を高める。 地域こども保育学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 1. 他者や異文化への理解を深め、平和でよりよい保育環境を実現できる保育者を目指し、キリスト教学、キリスト教保育をはじめとする科目を配置する。 2. 保育者としての豊かな感性を身につけるための表現技術に関する科目、自らを律して主体的に保育を実践できるための実習に関する科目等を配置する。 3. 教養科目では、思考力・判断力・表現力を身につけるための教養教育科目を配置する。また専門科目では、基礎理論に関する科目、対象の理解に関する科目、保育・教育の内容・方法に関する科目を配置する。 4. 地域や世界の保育課題に気づき、取り組むことができるよう、地域の福祉や保育に関する科目、海外幼児教育に関する科目を配置する。 5. 二年間で保育士資格、幼稚園教諭二種免許状および社会福祉主事任用資格の取得が可能なカリキュラムを編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： 英語科 : https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_eigo/ 地域こども保育学科 : https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/policy_hoiku/)
(概要) 英語科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） ＜求める人物像＞ 1. 建学の精神を理解し、地域社会と世界に奉仕する意欲のある者。 2. 多様なバックグラウンドを持つ人々と協働し、自分の意志と判断で行動できる者。 3. 英語と日本語による適切なコミュニケーションにおいて、その場の状況に応じて考え、判断し、自己表現できる者。 4. 知識・技能等の「学力の三要素」において、高等学校等で修得すべき基礎的な能力を身につけている者。 ＜高等学校で履修すべき科目や取得しておくことが望ましい資格等＞ 高等学校等で修得すべき基礎的な能力を身につけていて下さい。特に英語は実用英語技能検定準2級レベル以上の語学力を有していることが望ましいです 地域こども保育学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） ＜求める人物像＞ 1. 子どもが好きで、子どもを理解し、共に生きることを考え、子どもと一緒に自身の感情を豊かに表現することのできる者。 2. 主体的に周囲とかかわることができ、対話を通して課題を見つけ、解決しようとする意欲のある者。 3. 基礎的な学力を備え、保育の理論と実践を深く学ぶ意欲のある者。 4. 子育て家庭や地域社会の保育課題解決に意欲のある者

＜高等学校で履修すべき科目や取得しておくことが望ましい資格等＞

主体的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うために、聞く・話す・読む・書くなどの国語に関する基礎的な知識や技能を習得しておくことが望まれます。その他、公共を中心に、どの科目もバランスよく学んでおくこと。入学後の講義、演習、実習において、学ぶ内容に対して理解を深め、他の学生と協働し、様々な課題を探究解決する能力を育成するために必要となります。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	0 人	－					0 人
英語科	－	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
地域こども保育学科	－	6 人	5 人	0 人	1 人	0 人	11 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2 人		11 人					11 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
		英語科					
		https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/faculty_ocjc/#ocjcF02					
		地域こども保育学科					
		https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/faculty_ocjc/#ocjcF02					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「沖縄キリスト教短期大学FD委員会」を設置し、建学の精神を踏まえた学科の教育目的並びに、目標とする教職員像及び人材育成方針に基づき、教育内容・教育方法の改善を図るため、様々なFD活動を行っている。							
【主な活動内容】							
・FDに係るアセスメント調査（授業改善アンケート、学生生活実態調査、成績分布状況等）の計画・実施及び結果分析							
・ティーチング・アワードの選考							
・FDワークショップの実施							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
英語科	0 人	0 人	0.0%	0 人	2 人	0.0%	0 人	0 人
地域こども保育学科	100 人	56 人	56.0%	200 人	124 人	62.0%	0 人	0 人
合計	100 人	56 人	56.0%	200 人	126 人	63.0%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
英語科	47 人 (100%)	9 人 (19%)	29 人 (62%)	8 人 (17%)
地域こども保 育学科	59 人 (100%)	1 人 (2%)	54 人 (92%)	4 人 (6%)
合計	106 人 (100%)	10 人 (9%)	83 人 (78%)	12 人 (11%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：沖縄キリスト教学院大学、沖縄国際大学、沖縄大学、関東学院大学 就職先：(英語科) 日本郵便、JAL スカイエアポート、ANA 沖縄空港、薬正堂 (地域こども保育学科)：県内保育園、幼稚園、こども園、県外保育園				
(備考) その他：(英語科) 留学準備中 (1 名) のため含まず。 (地域こども保育学科)：専修学校入学 (1 名) したため含む。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
英語科	44 人 (100%)	42 人 (95.5%)	1 人 (2.3 %)	1 人 (2.3 %)	0 人 (0.0 %)
地域こども保 育学科	73 人 (100%)	56 人 (76.7%)	8 人 (11.0 %)	9 人 (12.3 %)	0 人 (0.0 %)
合計	117 人 (100%)	98 人 (83.8%)	9 人 (7.7 %)	10 人 (8.5 %)	0 人 (0.0 %)

（備考）

- ・2025 年 3 月 31 日現在
- ・入学者には、10 月入学生を含まない。
- ・留年者数には、休学により在籍不足となる学生（英語科 0 人、地域こども保育学科 2 人）を含む。
- ・中途退学者には、除籍（英語科 1 人、地域こども保育学科 1 人）を含む。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

授業科目について、本学では「シラバス作成ガイドライン」に則り科目担当教員がシラバスを作成する。シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・マップ、また作成ガイドラインに基づき、各項目（授業形態、到達目標、授業の概要、各回の授業計画及び事前学習・事後学習、評価方法・評価基準、DP との関連性 等）について明記している。その際、第三者（短期大学部長、科長、教学支援部長、学科教員間、等）による点検作業を実施し、適正性に欠けるシラバスについては、担当教員へ修正を指示し、適正な内容へと改善を行っている。

シラバスは 3 月中旬に完成し、ホームページ上で公表している。シラバス活用については、履修登録ガイドと併せて Web シラバスの利用手順を履修登録前の 3 月下旬にホームページ上に掲載し学生向けに周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

学修の成果に係る評価は、各授業科目の「評価方法」として、到達目標に対する学修成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を、シラバスにあらかじめ明示している。

（例：定期試験〇％、課題・授業外レポート〇％、小テスト〇％ 等）

また各授業科目の「評価基準」についても、到達目標で示した学修成果の到達度を評価する際にどこに着目するのか、具体的で客観的な判断基準として「授業別ルーブリック評価」を導入し、評価項目と評価基準について、初回講義時に学生に説明することとしている。

客観的な指標として GPA 制度を採用しており、活用状況については下記 URL にて公表している。

卒業の認定に当たっては、以下の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた上で、所定の単位数を修得した学生に対し、学則第 12 条、第 30 条及び学位規程第 2 条に則り、卒業を認定し学位を授与する。

【沖縄キリスト教短期大学】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

キリスト教、平和、沖縄の学びそして他者への奉仕を重んじる本学の建学の精神を理解し、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばすための主体的な学びをすることで、進路先で求められる課題解決に必要な教養と専門の基礎的知識・技能、社会人基礎力を習得した学生に学位の授与を行う。

【英語科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。
2. 多文化・異文化に関する理解と国際的な視野を身につけている。
3. 「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「知識・技能」をはじめ社会人にふさわしい教養および専門分野の基礎力と批判的思考力を身につけている。
4. 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。
5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（英語）の学位を授与する。

【地域こども保育学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。
2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。
3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。
4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。
5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。

【沖縄キリスト教短期大学学則】

（卒業に要する単位数）

第12条 卒業に必要な単位数は62単位とし、その内容は次のとおりとする。

- （1）教養教育科目 必修科目および選択必修科目を含む16単位以上
 - （2）専門教育科目 46単位以上
- （卒業・学位・教育職員免許）

第30条 本短大に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し所定の単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。卒業の認定及び卒業証書授与は、3月及び9月に行う。

- 2 学長は、卒業を認定した者に短期大学士の学位を授与する。
- 3 学位授与に関する規程は別に定める。

【沖縄キリスト教短期大学学位規程】

（学位の名称）

第2条 本短大において授与する学位は次のとおりとする。

英語科 短期大学士（英語）
 保育科 短期大学士（保育）
 地域こども保育学科 短期大学士（保育）

【沖縄キリスト教短期大学履修規程】

第4条

3 学期毎の履修可能な単位数は、原則として次のとおりとする。ただし、上限を超えての履修について、所属学科長との面談により承認された場合は、その限りではない。

学 科	上限単位数	備 考
英語科	22	-
保育科	24	実習科目及び実習指導は含めない。
地域子ども 保育学科	24	実習科目及び実習指導は含めない。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	英語科	62 単位	⑦・無	22 単位
	地域こども保育学科	62 単位	⑦・無	24 単位
G P A の 活 用 状 況 (任 意 記 載 事 項)	公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocjc/ocjc_requirements/#GPA			
学 生 の 学 修 状 況 に 係 る 参 考 情 報 (任意 記載事 項)	公表方法： ・学生による授業改善・評価アンケート結果 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho11 ・学生生活実態調査報告書 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho12 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/ ・学生満足度調査 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#0305 ・資格取得奨励金給付実績 https://www.ocjc.ac.jp/campuslife/support_official/			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 教育環境： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/info_edu/ 校地・校舎： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/kouti/ キャンパスマップ： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/cmap/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	英語科	660,000 円	130,000 円	220,000 円	教育充実資金（年間） 休学中の在籍料（年間）
	地域こども保育学科	660,000 円	130,000 円	220,000 円	教育充実資金（年間） 休学中の在籍料（年間）
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 1. 奨学金 意欲と能力があり、経済的理由により、学費援助を必要とする学生のために本学独自の奨学金があり、すべて給付型（返還不要）である。 2. 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者 入学手続き時に「大学等奨学生採用候補者決定通知」の写しと共に「学費分納願」を提出し、分納手続きを行った入学生については、前期分授業料減免予定額を入学後まで猶予している。入学後、JASSO より採用の確認が取れ次第、奨学金と減免額の振替処理を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 1. 就職について キャリア支援課において、徹底した「個別支援」、きめ細やかな就職支援を行っている。 （１）個別相談・個別支援 （２）進路セミナー（６月） （３）就職ガイダンス（Tcafe） （４）就職セミナー★1Days （５）業界研究 cafe （６）学内企業説明会の開催（対面、オンライン）※英語科 （７）学内就職説明会（６月、１０月）※地域こども保育学科 （８）各種資格/試験対策講座の開講 ①英検対策講座 ②日本語検定３級対策講座 （９）講義との連携 （１０）県外就職促進事業 （１１）資格取得奨励金給付（英検、TOEIC を含め英語系資格取得者への奨励金） 2. 進学について 大学編入学についての各種相談、情報提供等を学生課にて行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・学生一人ひとりに入学と同時に担当教員（アドバイザー）を決定し、何でも気軽に話し合える関係づくりと学生のアカデミックライフの資質向上を目標としたオフィスアワーの体制をとっており、学生個々人の豊かな自己発展につながるよう支援している。

- ・専門のカウンセラーによる面談・メールでの相談を受けている。
- ・毎年４月（復学者は９月）に健康診断を実施し、学生の身体状況を把握している。結果により校医等による相談・指導などフォローアップを行っている。
- ・障害学生に対しては、規程を整備し大学全体でサポート・合理的配慮の提供ができる体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/eduinfo/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

2025年度

沖縄キリスト教短期大学

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

[※各科目のシラバスについては、検索システムよりご確認ください。](#)

【英語科】 ※従前の教育課程に基づき記載

【教養教育科目】

	科目名	単位数	担当教員（実務経験）	備考
1	カウンセリング	2	柳田 正豪	
		2		

【英語科 専門科目】

	科目名	単位数	担当教員（実務経験）	備考
1	マーケティング入門	2	安部 潤	
2	航空ビジネス入門（夏期集中講座）	2	戸崎 肇	
3	キャリア・レッスン	2	内間 清晴	
		6		

【地域こども保育学科 専門科目】

	科目名	単位数	担当教員（実務経験）	備考
1	保育者論	2	平中 尚子・糸洲 理子	
2	子育て支援	1	砂川 亜紀美	
3	保育内容指導法（人間関係）	1	天願 順優	
4	手話	2	神田 朋子・赤嶺 典子	
5	子ども家庭支援論	2	宮平 隆央	
		8		

講義科目名称： カウンセリング

授業コード：

英文科目名称： Counseling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1～2年	2単位 (2-0)	選択必修科目（教養教育一般科目）
担当教員			
柳田 正豪			
授業形態：講義	ナンバリング：SSS121602		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 ・カウンセリング理論：基本的なカウンセリング理論を学び心や認知のメカニズムを学ぶ。 【到達目標】 カウンセリング技能：基本的な技法を用いてカウンセリングを行うことができる。 知識・理解の観点：複数の理論を学び、自分自身の生き方を見つめ直すことができる。 技能の観点：適切な言語的・非言語的アプローチをすることができる。 態度の観点：ロールプレーや授業外活動の課題に取り組むことができる。		
授業の概要	カウンセリングを学習するにあたっては、複数の理論と技法を学ぶ必要があるといわれ、また学習方法としては、ロジャーズの「来談者中心的カウンセリング」から始めた方が適切であるといわれている。人間の心の問題および人間関係の問題に際しての基本的なカウンセリング理論や技術等を、講義・演習・討議をとおして学習する。また、学校現場において10年以上にわたるスクールカウンセラーの実務経験のある担当教員が、その経験を活かして、ケーススタディーや理論・技術の応用等、具体的事例や課題を提示・解説し、グループディスカッション等において理解を深める一助となる授業を展開する。		
授業計画	第1回 カウンセリングとは何か カウンセリングとは何かについて考えてもらう。教員の自己紹介を交えながら、スクールカウンセラーや精神病院で勤務していた経験を語る。精神疾患についても少し語る。授業の後半は学生自身の自己分析をおこない、自己について深く理解してもらう。 授業形態：講義 【事前学習】 シラバスを読んでおくこと。（1.5時間） 【事後学習】 配布された資料を、次の講義までの読むこと。（2.5時間） 第2回 臨床心理とカウンセリング 臨床心理士について語る。また国家資格となった「公認心理師」についても触れる。また臨床心理士の働く異なる職場についても触れる。授業の後半では、カウンセリングの専門用語についていくつか学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】 事前に配布された資料を読んでおくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間） 第3回 カウンセリング理論と技術 ① 精神分析療法 フロイトの精神分析療法について学ぶ。心の構造や意識・無意識について学ぶ。また精神分析療法から見た性格の形成や自由連想法についても学ぶ。授業後半は実際にペアを組み、自由連想法のロールプレーを実践してみる。 授業形態：講義・演習（ロールプレー） 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間） 第4回 カウンセリング理論と技術 ② 行動療法 古典的条件づけとオペラント条件づけを主に中心にして講義をすすめる。それぞれの特徴の違いに触れ、それぞれの治療方法を説明していく。授業後半にはロールプレーを実践する。 授業形態：講義・演習（ロールプレー） 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）		

第5回	カウンセリング理論と技術 ③ 認知行動療法 「認知」について考える。エリーのABC理論を使って、不合理な考え方の理解をしてもらう。認知のゆがみや認知行動療法の特質についても学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）
第6回	カウンセリング理論と技術 ④ 来談者中心療法 来談者中心療法までに至る心理学の流れを説明する。カウンセラーの3条件（純粋性、尊重性、共感性）を理解した上で、カウンセリングのロールプレーをしてもらう。 授業形態：講義 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）
第7回	ピアヘルパー ① 言語的技法パート1。ここでは受容、繰り返し、そして言い換えを学ぶ。授業の後半では、この学んだ技法を応用して、カウンセリングのロールプレーを行う。 授業形態：講義・演習（カウンセリングのロールプレー） 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）
第8回	ピアヘルパー ② 言語的技法パート2。ここでは支持と開かれた質問・閉ざされた質問を学ぶ。授業の後半では、この学んだ技法を応用して、カウンセリングのロールプレーを行う。 授業形態：講義・演習（カウンセリングロールプレー） 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）
第9回	ピアヘルパー ③ 非言語的技法を学ぶ。適切な座る位置、視線、顔の表情、沈黙などを学ぶ。授業後半では、座る位置、表情に意識しながら、今まで学んだスキルを活かしてカウンセリングのロールプレーをしてもらう。 授業形態：講義・演習（カウンセリングロールプレー） 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）
第10回	ピアヘルパー ④ カウンセリングの対話で、遭遇する諸問題への対処法について学ぶ。話が進展しない場合、沈黙の場合、抵抗がある場合など、対処法を学ぶ。 授業内容：講義・演習（カウンセリングロールプレー） 【事前学習】 前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】 講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。（2時間）
第11回	カウンセリング演習 ① カウンセリングには欠かせない共感性や自己開示、そしてパーソナリティについて学ぶ。

	授業形態：講義・演習(カウンセリングロールプレー) 【事前学習】前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。(2時間) 【事後学習】講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。(2時間)
第12回	カウンセリング演習 ② 心理テストを通して、自己分析を行う。またテストの結果を利用して、カウンセリングのロールプレーを行う。 授業形態：講義・演習(カウンセリングロールプレー) 【事前学習】前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。(2時間) 【事後学習】講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。(2時間)
第13回	発達障害について 広汎性発達障害を主に学習する。AD/HDや自閉症スペクトラムについて学ぶ。 授業形態：講義・動画 【事前学習】前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。(2時間) 【事後学習】講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。(2時間)
第14回	精神疾患について 双極性障害、統合失調症、うつ病について学ぶ。 授業形態：講義・動画 【事前学習】前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。(2時間) 【事後学習】講義で学んだ内容を復習しておくこと。次回この内容のクイズがある。また次の講義配布資料にも目を通しておくこと。(2時間)
第15回	今までのまとめ 今までのまとめ。今まで学んだことを総合的に復習する。また第1回目に行った自己分析を再度行い、前回のデータと比較してもらう。 授業形態：講義 【事前学習】前回学んだ内容のクイズがあるため、前回の講義内容を復習しておくこと。(2時間) 【事後学習】期末試験に向けて、総合的な復習をする。(2時間)
第16回	期末試験 期末試験を受ける。課題提出の最終日。 【事前学習】期末試験の勉強(2時間) 【事後学習】試験の見直し(2時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	日本教育カウンセラー協会編2002『ピアヘルパー ハンドブック』 図書文化
参考書	影山任左 著 『図解雑学 心の病と精神医学』ナツメ社 福山清蔵 著 『入門 カウンセリングワークブック』日本・精神技術研究所 国分康孝 著 『カウンセリングの理論』誠信書房
評価方法	期末試験40% 小テスト30% 授業への参加度20% カウンセリング課題10%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している

	可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	(英語科) 【 】 1. 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。 【 】 2. 多文化・異文化に関する理解と国際的な視野を身につけている。 【○】 3. 「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「知識・技能」をはじめ社会人にふさわしい教養および専門分野の基礎力と批判的思考力を身につけている。 【○】 4. 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（英語）の学位を授与する。 (保育科) 【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	授業内で配布した資料は期末テストに出るので、大切に保管すること。
オフィスアワー	後期授業のため、日程を確定次第、公表する。
課題に対するフィードバック方法	課題及び授業内の小テストは授業内で解答し、翌週に返却する。

講義科目名称： マーケティング入門

授業コード： 2056A

英文科目名称： Introduction to Marketing

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位 (2-0)	選択必修科目 (国際観光ビジネス群)
担当教員			
安部 潤			
授業形態：講義	ナンバリング：TRE224215		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 マーケティングの基礎を習得する。 【到達目標】 ・マーケティング理論を、実際のマーケティング活動事例(ケーススタディ)と照らし合わせて、実践的な知識として習得する。 ・指導教員から与えられたテーマについて、調査、検証し、議論できるようになる。		
授業の概要	マーケティングは、単に商品・サービスの売り上げを最大化させるための手法ではなく、さまざまな社会活動において重要な考え方である。 日常生活のなかで目にする実際のマーケティングの事例を検証しながら実践的に学ぶ。 担当教員は、これまで国内外の大手製薬会社で営業・営業企画・マーケティング(海外勤務含む)の各業務において管理職として従事した後、沖縄県内大手旅行会社でマーケティングの責任者として旅行業、レンタカー業の実務をおこなってきた。 これらの経験も踏まえて、マーケティングの基礎について、具体的な事例も示しながらわかりやすく解説する。		
授業計画	第1回	ガイダンス 本講義の全体像、受講の心構え、成績評価、本講義の狙い、理解を深めるための説明をおこなう。 講義内容の全体像を把握するため、当ガイダンスで各講義の要点を概説する。 【事前学習】 日常生活の中で自分が気に入っているお店について、なぜ気に入っているのかをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第2回	マーケティング・ミックス(1) -マーケティングのSTPとは マーケティングの基礎的手法としてのマーケティング・ミックスについて、STPの視点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第3回	マーケティング・ミックス(2) -マーケティングの4Pと4Cとは マーケティングの基礎的手法としてのマーケティング・ミックスについて、4P・4Cの視点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第4回	マーケティング戦略(1) -マーケティングの歴史と変遷 マーケティング戦略の歴史、経緯、変遷について、具体的な事例を示しながら概観する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第5回	マーケティング戦略(2) -提供する商品・サービスの本質とは マーケティング戦略の本質、意義などについて、具体的な事例を示しながら概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間)	

	【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 6 回	マーケティング戦略(3) -ライフサイクルマネジメントとは・PDCAとは 製品やサービスの価値の維持、延長についてライフサイクルマネジメントの観点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 7 回	ブランド戦略(1) -ブランドとは マーケティング戦略において重要なブランドについて、その基礎を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 8 回	ブランド戦略(2) -ブランド戦略を実践する企業・組織の事例研究 ブランド戦略について、国内外の事例を紹介し、その重要性を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 9 回	価格戦略 マーケティングにおける価格戦略について、具体的な事例、最近の事例などを紹介し、その重要性を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 1 0 回	商品・サービス開発戦略 商品やサービスを開発する際に留意すべき事項について、事例を紹介しながら概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 1 1 回	プロモーション戦略 多様化するプロモーションのあり方について、具体的な事例を紹介しながら、その重要性を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)
第 1 2 回	業種別マーケティングの事例(1) -製造業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、菓子(沖縄土産品)製造販売業の企業活動例を研究する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。 (2時間)

	第13回	業種別マーケティングの事例(2) -宿泊業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、宿泊業の企業活動例を研究する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
	第14回	業種別マーケティングの事例(3) -旅行業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、旅行業の企業活動例を研究する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
	第15回	総括 これまでの講義で概説したさまざまなマーケティングの基礎事項をもとに、マーケティング戦略全体の構造を振り返り、総括する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などについて、配布した用紙に記入して講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
	第16回	期末試験 これまでの講義の理解状況を確認する。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 受講生はグループ別に課題を調査し報告をおこなう 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 事前課題でマーケティングに関する新聞記事を読む 3) ICTの活用 【○】 講義、グループ発表はパワーポイントを活用する	
テキスト	テキストは使用しません。講義でレジュメ等を配布して予習・復習できるよう配慮します。	
参考書	講義の際に必要な参考文献を紹介します。	
評価方法	授業への参加度・授業態度(30%)、事前学習(20%)、事後学習(20%)、期末レポート(30%)によって総合的に評価する	
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【 】 DP 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 DP 2. 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働すること 【○】 DP 3. 主体性をもって自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができること 【○】 DP 4. 基礎的な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、解決策を練ることができること	
履修上の注意	身の回りで日々起きている社会事象に関心を持って講義に臨んでください。	
オフィスアワー	未定	
課題に対するフィードバック方法	課題の結果について、教員から直接学生にフィードバックする	

講義科目名称： 航空ビジネス入門（夏期集中講座）

授業コード： 2233A

英文科目名称： Airline Business

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
夏期集中	1～2年	2単位 (2-0)	選択必修科目（国際観光ビジネス群）
担当教員			
戸崎 肇			
授業形態：講義	ナンバリング：TRE224102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：航空ビジネスの理論と実際 到達目標：この授業を履修することで、航空ビジネスとはどのようなものか、そこで働く人々はどのような業務に携わっているのか、航空業界に就職するためにはどのような資質が求められるか、といった観点から、航空ビジネスに関して多角的に理解することができるようになる（知識・理解）。そして、将来航空業界、航空関連業界に就職するための基本的素養、姿勢を身に付けることができる（技能）。また、実際に航空ビジネスに従事している人々から直接授業を受けることで、より積極的に学ぶ姿勢を得ることができる（態度）。		
授業の概要	講義の前半においては、航空会社や旅行代理店等の航空産業および旅客販売営業に従事した経験の有する教員が、その経験を活かして、航空ビジネスにおける各職種について具体的な職務内容を解説する。 講義の後半においては、現在、実際に航空ビジネスに従事している方々からお話をいただくとともに、空港、会社を訪問し、業務における工夫、課題等を実践的に体験する授業を展開する。 一方的な講義にとどまることなく、質疑応答、グループワークなど、アクティブラーニングの手法を活用することで、自ら考え、意見を述べることができるようになることを目指す。		
授業計画	第1回 イントロダクション：本講義の全体像についての説明 【事前学習】 テキスト『1時間でわかる図解これからの航空ビジネス早わかり』中経出版など、教科書、参考書に目を通しておくこと。4時間程度を費やすことが求められる。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載するが、毎回復習すること。 第2回 航空会社ではどのような仕事が行われているのか 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第3回 世界の航空市場について（アライアンス） 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第4回 日本の航空市場について（日本におけるLCCなど） 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第5回 インバウンドの急増と東京オリンピック、解決すべき問題 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第6回 パイロットという仕事について 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第7回 キャビン・アテンダントという仕事について 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第8回 整備という仕事について 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第9回 管制官、保安検査という仕事について 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第10回 航空会社におけるセールスという仕事について 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。		

	第11回 空港で働くということについて 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第12回 空港の整備場の見学 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第13回 客室乗務員の教育現場の見学 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第14回 ビジネス・ジェットの可能性 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 第15回 本講義のまとめ 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。 【事後学習】 全体を4時間以上かけてしっかりと復習すること。 第16回 定期試験
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】
テキスト	『1時間でわかる図解これからの航空ビジネス早わかり』中経出版、2010年 『ビジネスジェットから見る現代航空政策論』、晃洋書房、2021年
参考書	『観光立国論』現代書館
評価方法	定期試験等50%、小テスト・授業レポート50%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。 【 】 2. 多文化・異文化に関する理解と国際的な視野を身につけている。 【 】 3. 「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「知識・技能」をはじめ社会人にふさわしい教養および専門分野の基礎力と批判的思考力を身につけている。 【○】 4. 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（英語）の学位を授与する。
履修上の注意	講義時は不要な会話は行わず静粛に。ただ、講義中でも質問等があれば躊躇せず積極的に行うこと。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	レポートのフィードバックは最終授業時に行う。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	1単位(2-0)	必修科目 (英語科専門科目)
担当教員			
内間 清晴			
授業形態：講義	ナンバリング：CAR214203		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 「ステキな社会人」、「求められる人」になるため、また自分のキャリアを追い求めるために必要な知識やスキルを学び、実践できるようになる。 【到達目標】 ①認知的領域：社会人基礎力についての理解と認識を深めることができる。 ②技術表現的領域：フィードバックレポートを通して、論理的に学んだことを報告することができる。 ③情意的領域：ゲスト講師との出会いにより、社会人としてのふるまい方、働くことの意義を実感することができる。		
授業の概要	・キャリア支援における実務従事者をゲストスピーカーに招き、経験を活かした実践上の課題、取り組み等、社会人に求められる基礎力および就活に必要な事柄について、具体的な事例を提供し、解説する。 ・各授業回は、各種専門家・実務経験者等によりオムニバス形式で行う。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、社会人基礎力およびビジネスマナー（社会で役立つマナー） ・オリエンテーションを通して授業の概要を確認する。 ・社会人基礎力についての考察を深める。 ・ビジネスマナーについて、敬語等の言葉遣いをはじめ、接遇表現等を通して、ビジネスシーンにおける円滑なコミュニケーションについての指導を行う。 【事前学習】 シラバスで全15回分の講義内容を確認しておく。事前に配布される今回の授業に関する資料を読んでおくこと（30分） 【事後学習】 フィードバックレポート作成（30分） 第2回 ラブレターを書いてみよう（応募書類の書き方） 就活における応募書類の準備や書き方について、自己PR書の作成やポイントを踏まえた志望動機の記事化を通して、エントリーシートの作成と送付方法等の指導を行う。 【事前学習】 事前に配布される授業に関する資料を読んでおくこと（30分） 【事後学習】 フィードバックレポート作成、エントリーシート作成（30分） 第3回 自分を知ろう（自己分析） 国家資格キャリアコンサルタントの資格を保有する本学キャリア支援課の職員が、客観的な自己分析方法について担当し、自己分析における長所と短所のリフレーミング（切り替え）を通して、自己理解を深め、エントリーシートに反映させるための指導と自己PR動画の作成を行う。 【事前学習】 パソコン入力の練習と情報機器操作の方法を確認しておくこと（30分） 【事後学習】 フィードバックレポート作成、自己紹介書推敲（30分） 第4回 業界研究①（求人情報・企業情報を正確に読み取る） 就職情報サイト国内No.1のマイナビ担当者に求人票や求人サイト、企業情報の見方を学び、就活において企業選択の上でミスマッチを起こさないよう指導を行う。 【事前学習】 : マイナビサイトにアクセスし、必要に応じてエントリーしておくこと（30分） 【事後学習】 : 具体的な希望企業をリストアップして、その理由をレポートする（30分） 第5回 業界研究②（様々な業界の特徴を学ぶ） 企業説明会（2～3社）の体験を通して、企業における職種の多様さや企業内のキャリアパスの現状を紹介し、仕事についての具体的な意識付けについての指導を行う。 【事前学習】 業界研究の方法について確認しておくこと（30分） 【事後学習】 合同企業説明会or学内企業説明会参加レポート（30分） 第6回 企業説明会 企業説明会（2～3社）の体験を通して、企業における職種の多様さや企業内のキャリアパスの現状を紹介し、仕事についての具体的な意識付けについての指導を行う。 【事前学習】 業界研究の方法について確認しておくこと（30分） 【事後学習】 合同企業説明会or学内企業説明会参加レポート（30分） 第7回 面接力UP（面接対策—集団面接） 集団面接のロールプレイ、面接官の気持ちを知る 代表学生数名がモデルとなって模擬集団面接を行う 沖縄県キャリアセンターの方が面接力UPについて担当し、面接についての理論と集団面接のワークを通して、就活における面接対策について指導を行う。 【事前学習】 事前に配布される授業に関する資料を読んでおくこと（30分） 【事後学習】 フィードバックレポート作成（30分） 第8回 論理的なプレゼンテーション 与えられたテーマについて、グループで論理的に考え、まとめ、スライドを作成する。（論理的思考の練習、根拠→結論） 【事前学習】 事前に配布される授業に関する資料を読んでおくこと（30分）		

第9回	【事後学習】 あたられたテーマに関してスライドを作成する。(30分) 英語科0B・0Gから学ぶ (キャリアデザイン) 沖縄セルラーの照屋陽氏が、キャリアデザインについて担当し、自らの就業状況や学生時代から就職するまでの経験談を通して、英語科から社会へ繋がるキャリアデザイン、ライフプランニングについての指導を行う。
第10回	【事前学習】 自分自身のキャリアデザインレポート作成 (30分) 【事後学習】 フィードバックレポート作成 (30分) 沖縄の観光と経済 りゅうぎん総研の方が沖縄の観光と経済の現状について指導する。
第11回	【事前学習】 事前に配布される授業に関する資料を読んでおくこと (30分) 【事後学習】 授業のフィードバックレポート作成 (30分) 人生とお金の関係 (マネー講座) ゆうちょ銀行渉外部営業インストラクターの方が、生涯賃金や生活費を含むマネープランについてのレクチャーを通して、人生とお金の関係についての指導を行う。
第12回	【事前学習】 労基法について調べておくことと自分の生活費の内訳の確認 (30分) 【事後学習】 授業のフィードバックレポート作成 (30分) キャリア・イングリッシュ (TOEIC-IPテスト) TOEIC-IPテストの受験を通して、英語力の分析を行う。
第13回	【事前学習】 TOEIC-IPテストに向けての勉強 (30分) 【事後学習】 受験後の自己分析 (30分) プレゼンテーション発表 与えられたテーマについて、グループで論理的に考え、まとめ、作成したスライドをプレゼンする。(論理的思考の 練習。根拠→結論)
第14回	【事前学習】 プレゼンテーションを作成しておくこと (30分) 【事後学習】 授業時に指摘されたことを踏まえてプレゼンテーションの内容を修正する (30分) 新聞の読み方 (ニュースチェック) 琉球新報社の方が、新聞の読み方、新聞の紙面づくりや新聞を読む意義についてのレクチャーし、新聞作りのワークを通して、社会への認識を深める方法についての指導を行う。
第15回	【事前学習】 新聞を読み、関心のある記事について深く学んでおくこと (30分) 【事後学習】 フィードバックレポート作成、関心のあるニュースについてのレポート作成 (30分) まとめ キャリアレッスン全講義を通して学んだことを、各授業で提出したフィードバックレポートや講義内容のメモに基づいたレポートを作成し、その内容について3分プレゼンを行う。クラスメートのプレゼンについての評価を行うことで、お互いに学びを深めあう。
第16回	【事前学習】 全てのフィードバックレポートを見直し、これまでの学びを振り返っておくこと (30分) 【事後学習】 最終レポート作成 (30分) なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 { } 3) ICTの活用 { } 4) 初年次教育 { }
テキスト	授業に関する資料を配布する。
参考書	授業内で、適宜紹介する。
評価方法	毎回の授業のフィードバックレポートおよび課題：50% 最終レポート：30% プレゼンテーション：20%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. 建学の精神に基づき、「平和」と「奉仕」を行動の規範として身につけている。 【 】 2. 多文化・異文化に関する理解と国際的な視野を身につけている。 【○】 3. 「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「知識・技能」をはじめ社会人にふさわしい教養および専門分野の基礎力と批判的思考力を身につけている。 【 】 4. 英語・日本語による実用的なコミュニケーション能力を身につけている。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（英語）の学位を授与する。
履修上の注意	・スーツまたは、スーツに準じる服装で参加すること ・授業態度が悪い場合には程度の応じて減点する。
オフィスアワー	月曜日 (13:00から14:20) 内間研究室 上記の時間以外でも対応可能 (事前予約必要)

課題に対する フィードバック方 法	担当教員がフィードバックレポートを点検した後、講義時に返却する。（各学生のメールボックス返却する場合もある。）
----------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1 年	2単位 (2-0)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
平中 尚子・糸洲 理子			
授業形態：講義	ナンバリング：EEB3211131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職・保育職の意義と役割の理解 【到達目標】 知識・理解の観点 ・現代社会における教職・保育職の意義と役割、倫理、制度的位置づけ、職務内容について説明することができる。 ・教職・保育職に必要な資質能力や専門性について説明することができる。 技能の観点 ・教職・保育職の意義と役割、教職・保育職に必要な資質能力や専門性について自らの考えを述べるができる。 態度の観点 ・他者と協働して討論に参加することができる。 ・教職・保育職につく者として、自己について客観的に振り返ることができる。		
授業の概要	幼稚園教諭・保育士・保育教諭の意義と役割、倫理、制度的位置づけ、職務内容（研修、服務、身分保障等）について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解を深める。なお、クラス担当者はそれぞれの保育所保育士、幼稚園教諭としての実務経験を活かし、保育者の意義や役割、資質能力、職務内容等について、具体的な事例を踏まえて講義する。		
授業計画	第1回 講義概要及び評価方法、「幼稚園教諭・保育士になる」ということ 講義概要及び評価方法について理解する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。 【事前学習】初回講義前に、保育者になりたい理由を考えておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第2回 保育所保育士の仕事と役割 保育所の一日のDVDを視聴し、保育所保育士の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト序章（pp. 13-22）、第1章（pp. 23-25, 29-33）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第3回 幼稚園教諭の仕事と役割 幼稚園の一日のDVDを視聴し、幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。保育所と幼稚園の違いについて、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp. 25-29）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第4回 保育教諭の仕事と役割 保育教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp. 33-41）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第5回 教育・保育に必要な子ども理解 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。 【事前学習】授業前にテキスト第3章（pp. 50-70）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第6回 幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp. 71-86）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第7回 職場で学び合う専門家 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp. 87-104）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第8回 特別支援教育・保育 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第7章（pp. 119-123）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第9回 子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割		

	子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第7章（pp. 116-136）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第10回 現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第8章（pp. 137-150）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第11回 幼稚園教諭・保育士の職務：服務、研修、身分保障 幼稚園教諭や保育士の服務や研修、身分保障について学び、その職務を理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章（pp. 105-115）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第12回 幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第2章（pp. 42-49）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第13回 日本の保育者のあゆみ 幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第9章（pp. 151-166）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第14回 専門職間及び関係機関との連携 園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。 【事前学習】授業前に配付する資料を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第15回 幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース 幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第10章（pp. 167-188）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間） 第16回 定期試験
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第4版』 みらい 2019年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年
参考書	ミネルヴァ書房編集部〔編〕 『最新保育小六法・資料集2025』 ミネルヴァ書房 2025年 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法	試験50%、レポート15%、講義内課題10%、討議10%、振り返りコメント15%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。 課題の提出は期限を厳守すること。
オフィスアワー	平中：毎週金曜日3限 平中研究室（西研3-4） 糸洲：毎週金曜日3限 糸洲研究室（西研3-8）
課題に対する	課題及びレポートは、評価後に返却する。

講義科目名称： 子育て支援

授業コード： 3138A 3138B

英文科目名称： Child-Rearing Support

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期・後期	2年次	1単位 (0-2)	選択科目 (保育士：必修)
担当教員			
砂川 亜紀美			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3232131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	○テーマ ソーシャルワークの視点から子育て家庭に対する相談支援の知識・技術を獲得する。 ○到達目標 知識・理解の観点：保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解することができる。 技能の観点：保育士の行う子育て支援に関して、様々な場面や対象に即した支援の内容と方法及び技術を獲得し、実践することができる。 態度の観点：多様な価値観について理解しようとする姿勢を持ち、受講生同士で協力しながら授業に参加できる。		
授業の概要	学生自身の保育の基礎知識と実習経験を基に、子育て家庭に対する相談支援の方法と技術を学び活用する意義について理解すると共に、保育に必要なソーシャルワークの視点について理解する。また、相談支援事業等、社会福祉現場における実務経験を有する担当教員が、その経験を活かし、実践上の課題を踏まえて具体的な事例を解説し、保育士の行う子育て支援の概要と支援の方法を講義する。		
授業計画	第1回 講義概要説明／子育て支援の概要 地域社会には、多様な価値観や特性をもった「人」が生活しており、相談援助の対象もまた「人」であることから、実際の対象をイメージするための導入を行う。 【事前学習】シラバスの確認(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第2回 他者を理解するために必要な自己理解 対人援助に欠かせない要素としての自己理解について説明し、ワークを通して「自己理解」につなげる。 【事前学習】子育て支援に関するニュースのピックアップ・前回配布資料の復習(30分)、【事後学習】配布資料の精読(30分) 第3回 子育て支援の基本的価値・倫理 全国保育士会倫理綱領や保育所保育指針などを確認しながら専門職としての価値や倫理について説明する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第4回 保育士の行う子育て支援の特性(相互理解と信頼関係) 保護者に対する相談援助の専門性、必要性、原理・原則、日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成について説明する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第5回 保育士の行う子育て支援の特性(ニーズへの気づきと多面的な理解) 様々な環境下で生活する保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解への視点について説明する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第6回 保育士の行う子育て支援の展開(基本的技術と自己覚知) 個人に対する援助技術(ケースワーク)における基本的態度や自己覚知について、具体的に事例を用いて説明する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第7回 保育士の行う子育て支援の展開(過程・姿勢) 対象やプロセス(ケースの発見～アフターケア)、相談を受ける姿勢について説明する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第8回 保育士の行う子育て支援の展開(記録・評価・カンファレンス) 援助過程の中での記録の取り方や記録の意義、振り返りの必要性について説明し、ワーク形式で実践する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第9回 社会資源の活用・専門職との連携・協働 地域の中にある様々な資源について理解し、連携の必要性、他機関(フォーマル、インフォーマル)との関わりの実践について説明し、資源の活用方法を検討する。また、ニーズをキャッチし新しい資源の開発に向けた取り組みやその必要性について説明する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分) 第10回 多様性の理解(ストレングスとエンパワーメント) マイノリティの事例をもとに、相談援助に必要な多様性理解の視点やストレングス・エンパワーメントに関する映像教材を視聴する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習(30分) 【事後学習】配布資料の精読(30分)		

	第11回 多様性の理解（ディスカッションとまとめ） 前回の映像教材をもとに、多様な特性や生き方、価値観などを理解し相談援助を行うために必要な視点やストレングス・エンパワーメントについて考え、自分なりの考えをまとめる。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習（30分）【事後学習】配布資料の精読（30分） 第12回 保育士の行う子育て支援とその実際 保育所等における支援・地域の子育て家庭・障害のある子ども及びその家庭に対する支援の事例を通して、これまで学んだ理論や方法について振り返り、実際の支援の状況から気づきや疑問などを確認する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習（30分）【事後学習】配布資料の精読（30分） 第13回 事例検討 虐待対応・要保護児童等の家庭に対する支援の事例を通して、これまで学んだ理論や方法について振り返り、実際の支援の状況から気づきや疑問などを確認する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習（30分）【事後学習】配布資料の精読（30分） 第14回 事例分析一書面による保護者とのやりとりについて 障害のある子どもとその保護者への支援など当事者からの事例提供を受け、生の事例を元に支援のあり方について検討し、他者との視点の違いについて共有する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習（30分）【事後学習】配布資料の精読（30分） 第15回 事例分析一クレームや要望への対応について、まとめ 保育場面で必要な視点・姿勢について、学んだことを実際に活用しロールプレイなどを通して擬似的に実践する。 【事前学習】前回配布資料の復習、配布資料の予習（30分）【事後学習】配布資料の精読（30分） 第16回 定期試験 講義全体を通して考える、子育て支援に必要な視点と支援者の姿勢について問う。（ICTを活用して出題することも想定している。） 【事前学習】全講義資料の精読（30分）【事後学習】講義全体の振り返り（30分）
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取り組み ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL(ProjectBased-Learning) ☐
テキスト	・小原敏郎ほか編『演習・保育と子育て支援（学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会）』みらい、2019年8月予定 そのほか、適宜講義内で資料を配布する。
参考書	・菊地篤子、金瑛珠「ワークで学ぶ子育て支援」みらい、2024年4月 ・小原敏郎、三浦主博編『保育実践に求められる子育て支援』ミネルヴァ書房、2019年10月 ・全国保育士会倫理綱領 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、2017年 ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2017年 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017年 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年 そのほか、適宜講義内で紹介する。
評価方法	定期試験50% 授業への積極性、態度30% 課題・ワークシート20%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	演習を取り入れた形で授業を進めるので前向きで積極的な参加（意見や質問の表明）を求めたい。必要に応じてICTを活用する。
オフィスアワー	①授業終了後、教室で質問を受け付けます。 ②メールで質問に答えます。メールアドレスは、初回の授業でお知らせします。
課題に対するフィードバック方法	可能な限り、毎回質問を受ける時間を設ける。 課題や提出物は授業内でその都度返却し回答する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
天願 順優			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231212		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 (1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針で示されている幼児教育・保育の基本を踏まえて、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。 (2) 乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる乳幼児教育施設での具体的な指導を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 【到達目標】 知識・理解の観点：領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が体験し身に付いていく内容と指導上の留意点を理解する。 技能の観点：ねらいや内容を踏まえた指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 態度の観点：模擬保育やロールプレイを通して実践を振り返り、保育を改善する視点を身に付ける。		
授業の概要	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。また、乳幼児の姿から理論と実践が繋がった教育内容を理解する。 幼稚園教育施設において勤務経験を有する担当教員が、その実務経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に示された領域「人間関係」の内容について、具体的な例を紹介する。さらに、教材の活用および指導法等について解説する。 また、各々領域「人間関係」のねらいや内容を踏まえた活動を考え指導案を作成する。その指導案についてグループで検討し、保育技術を培うために模擬保育をする。その模擬保育についてグループの仲間と振り返り、保育を改善していく術を身に付ける。		
授業計画	第1回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領における領域「人間関係」の全体全体像をつかむ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領における領域「人間関係」の全体全体像をつかむ 【事前学習】 各指針、要領の人間関係の領域を読んで理解しておくこと。(30分) 【事後学習】 領域「人間関係」について学んだことをまとめる。(30分)	
	第2回	保育内容の領域「人間関係」の特質と保育者の役割 保育内容の領域「人間関係」の特質と保育者の役割について 【事前学習】 幼児教育のガイドランを通して、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容について、調べまとめておくこと。(30分) 【事後学習】 領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容との関連性（繋がり）について、まとめる(30分)	
	第3回	0～2歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成を考える 0～2歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成について 【事前学習】 テキスト p 44～p 52まで読み、乳児期の発達と信頼関係について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分) 【事後学習】 乳児期における人間関係の発達について、まとめる。(30分)	
	第4回	3～5歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成を考える 3～5歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成について 【事前学習】 テキスト p 53～p 60までを読み、乳幼児期の発達と領域「人間関係」について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分) 【事後学習】 3～5歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成について、まとめる。(30分)	
	第5回	いざこざと保育者の援助 いざこざと保育者の援助について 【事前学習】 テキスト p 61～p 67まで読み、いざこざと保育者の援助について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)	

	【事後学習】 いざこざと保育者の援助について、まとめる。(30分)
第6回	自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について 自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について
	【事前学習】 テキストp 68～p 77まで読み、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第7回	【事後学習】 自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について、まとめる。(30分) きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助 きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について
	【事前学習】 幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕と〔内容〕を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第8回	【事後学習】 きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について、まとめる。(30分) ルールのある遊びと援助について ルールのある遊びと援助について
	【事前学習】 幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」の〔ねらい〕と〔内容〕を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第9回	【事後学習】 ルールのある遊びと援助について、まとめる。(30分) 個と集団の育ちについて 個と集団の育ちについて
	【事前学習】 テキストp 153～p 159まで読み、個と集団の育ちについて、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第10回	【事後学習】 個と集団の育ちについて、まとめる。(30分) 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開について 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開について
	【事前学習】 テキストp 187～p 192まで読み、協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第11回	【事後学習】 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育について、まとめる。(30分) 道徳性・規範意識を培う保育者の援助について 道徳性・規範意識を培う保育者の援助について
	【事前指導】 各自で道徳性・規範意識を培う保育者の援助について考え、まとめておくこと。(30分)
第12回	【事後指導】 グループで、事例内容(道徳性・規範意識を培う保育者の援助)を検討し、指針・要領を踏まえ、指導案を作成する。(30分) 社会生活との関わりと保育者の役割について 社会生活との関わりと保育者の役割について
	【事前学習】 テキストp 196～p 201まで読み、社会生活との関わりと保育者の役割について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第13回	【事後学習】 社会生活との関わりと保育者の役割について、まとめる。(30分) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について
	【事前学習】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について調べ、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)
第14回	【事後学習】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について、まとめる。(30分) 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について

	【事前学習】 テキスト p 202～p 205まで読み、領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分） 【事後学習】 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について、まとめる。（30分） 第15回 領域「人間関係」をめぐる諸問題とまとめ 現代社会から見える、人間関係に関する諸問題について 【事前学習】 現代社会から見える「人間関係」に関する諸問題について、考えてくること。（40分） 【事後学習】 領域「人間関係」に関する諸問題から見える幼児教育の在り方について、まとめる。（20分） 第16回 定期試験
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	無藤隆（監修）/古賀松香 編集代表）2024「主体としての子どもが育つ 保育内容『人間関係』」
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領 解説』 フレーベル館 2018年
評価方法	試験60%、課題40%で総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い」他の課題を課す。
オフィスアワー	何か質問等がある場合は、メールにて対応いたします。 以下のメールアドレスまでご連絡ください。 メールアドレス: info@cosmo-story.okinawa
課題に対するフィードバック方法	予習・復習（領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い）・事前事後学習内容）の課題を課す。 課題は、評価し授業内に返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (0-2)	選択科目 (保育士：選択必修A)
担当教員			
神田 朋子・赤嶺 典子			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3333272		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話が言語であることを理解し、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得することができる。		
授業の概要	聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話言語を理解するとともに、ろう講師と直接会話をするのでろう講師の話の内容が理解でき、自己紹介が表現できるようなレベルまで到達する。また、聴覚障害者の歴史・教育・就労など社会状況を学習し、ろう文化についても認識を深めていけるようにしていく。 沖縄県聴覚障害者協会の手話講師として実務経験のあるろう講師が、聴覚障害者の生活及び関連する様々な文化について理解を深めることができるよう具体的な例・場面を紹介し解説する。また、地域の手話奉仕員養成講座の講師を務める教員が、聴覚障害者のコミュニケーション手話言語を指導する。		
授業計画	第1回	目で見ることばを使ってみましょう。 1、手話表現の基本を知りましょう。 2、手話でのあいさつや場面に応じたあいさつを学びましょう。 3、手話講習会での注意事項を知りましょう。 【事前学習】DVD等により、指文字や表現の表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】挨拶が表現できる技術を習得する。(2時間)	
	第2回	名前を紹介しましょう。 1、自分の名前を表しましょう。 2、いろいろな名前の表現を学びましょう。 【事前学習】名前や挨拶をDVD等により聴覚障害者の様々な表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】挨拶と自己紹介が表現できる技術を習得する。(2時間)	
	第3回	数を使って話しましょう。 1、2ケタまでの数字の表し方を学びましょう。 2、時刻、年齢、日にちの表し方を学びましょう。 3、数字にまつわる会話をしましょう。 【事前学習】DVD等により、聴覚障害者の様々な数字の表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】数字の表現 年齢・誕生日に関わる手話を表現できる技術を習得する。(2時間)	
	第4回	聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解する。 1、家族とのコミュニケーション。 2、地域の人々とのコミュニケーション。 3、子育てで困ったこと。 4、職場で困ること。 5、病院で困ること 【事前学習】聴覚障害者の生活をDVD等により聴覚障害者の様々な生活を学習する。(2時間) 【事後学習】聴覚障害者には日常生活において情報保障、コミュニケーション、自己決定の保障が必要なことを理解する。(2時間)	
	第5回	家族を紹介しましょう。 1、家族の表し方を学びましょう。 2、家族に関する表現を学びましょう。 3、人数の表し方を学びましょう。 【事前学習】DVD等により聴覚障害者の様々な家族の表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】相手の家族の話聞くことにより会話の幅を広げる。(2時間)	
	第6回	交通方法について話しましょう。 1、場所や行き方、金額、所要時間の表現を学びましょう。 2、3ケタ以上の数字の表現を学びましょう。 3、交通方法について会話をしましょう。 【事前学習】DVD等により聴覚障害者の様々な交通や場所の表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】交通に関わる手話が表現できる技術を習得する。(2時間)	
	第7回	好きなことについて話しましょう。 1、好き、嫌い、得意、苦手など気持ちの表現を学びましょう。 2、顔の表情や手話の強弱をつけて気持ちに合った表現をしましょう。 3、好きなことについて会話をしましょう。 【事前学習】気持ちの内容をDVD等により聴覚障害者の様々な表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】気持ちの内容に関わる手話が表現できる技術を習得する。(2時間)	
	第8回	仕事を紹介しましょう。 1、仕事に関わる表現を学びましょう。 2、仕事について話しましょう。	

第9回	【事前学習】DVD等により、聴覚障害者の様々な仕事の表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】仕事に関わる手話が表現できる技術を習得する。(2時間) 1日のことを話しましょう。 1、1日に関わる表現を学びましょう。 2、今日1日のことを手話で伝えましょう。
第10回	【事前学習】1日・1ヶ月の表現をDVD等により聴覚障害者の様々な表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】1日・1ヶ月に関わる手話が表現できる技術を習得する。(2時間) 1週間のことを話しましょう。 1、過去・現在・未来の表し方など「時(とき)」に関わる語彙を学びましょう。 2、「1週間に3回」といった表し方を学びましょう。
第11回	【事前学習】一週間の表現をDVD等により聴覚障害者の様々な表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】一週間に関わる手話が表現できる技術を習得する。(2時間) 手話言語の基礎知識 1、身振りと言話言語の違い。 2、手話言語の歴史。 3、地域差、個人差など日本の手話言語の特徴。 4、沖縄県手話言語条例について考える。
第12回	【事前学習】聴覚障害の基礎知識・手話の基礎知識についてを読んでおく。(2時間) 【事後学習】聴覚障害の基礎知識・手話の基礎知識の内容で感想をまとめる。(2時間) スポーツや趣味について話しましょう。 1、スポーツや趣味に関する語彙を学びましょう。 2、同じ手話を繰り返す表現を学びましょう。
第13回	【事前学習】スポーツや趣味をDVD等により聴覚障害者の様々な表し方を学習する。(2時間) 【事後学習】相手にわかりやすい表現技術として表現できること。(2時間) 冷蔵庫を買いに行きましょう。 1、身の回りにある電化製品の語彙を学びましょう。 2、物の形やそれを使うときの動作で表現することを学びましょう。
第14回	【事前学習】学習したことをもう一度復習する。(2時間) 【事後学習】学習した内容ができたか、気づいたことをまとめる。(2時間) まとめ～単語・短文の表現、読み取り、指文字の復習～ 1、1～13授業まで学んだことを復習し確実に身につけましょう。 2、自己紹介を豊かに、そしてスムーズに表現しましょう。 3、相手の自己紹介がわかるようになりましょう。 4、指文字を練習して、会話の中で使いましょう。
第15回	【事前学習】単語等を学習したことをもう一度復習する。(2時間) 【事後学習】気づきしたことを改めて覚えておく。(2時間) 実技試験(面接方式) 自己紹介を豊かに、そしてスムーズに表現ができること。 お互いのことをたずねあってみましょう。
第16回	【事前学習】今まで学んだことをもとに自分のことを手話で表現練習する。(2時間) 【事後学習】お互いのことをたずねあって確認する。(2時間) 筆記試験 手話単語、短文の読み取り記述。 知識(手話の基礎知識・聴覚障害者の理解)筆記。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	①手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟 ②聴さんと学ぼう！ 全日本ろうあ連盟 ※内容が変わる時もありますのでご了承ください
参考書	『聴さんと学ぼう』 『わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ、Ⅱ』
評価方法	1、手話実技(読み取り・表現)手話で日常会話をする力を高めていく。(70%) 2、聴覚障害者に関する基礎知識(15%) 3、手話の基礎意識(15%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。

	【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	授業中は、講師の手話に集中し音声言語は慎むこと。 新しい表現について手や動かし方や方向を確認する。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	課題や質問（レポート・アンケート）などは授業内で解答する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目 (保育士：必修)
担当教員			
宮平 隆央			
授業形態：講義	ナンバリング：EEB3212123		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 1. 家庭の意義とその機能について理解します。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解します。 3. 子育て家庭の支援体制について理解します。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。 【到達目標】 ・知識・理解の観点：子育て支援を取り巻く現状と課題に関する基礎的な理解を得る。 ・技能の観点：現場へ出るにあたり、家庭支援・子育て支援の基礎的な技能を理解する。 ・態度の観点：保育者として、家庭支援における基本的な態度を身につける。		
授業の概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、保育の専門性を活かした支援の意義等について習得する。また、子育て家庭に対する支援の法制度・実施体系についての基礎知識を理解し、多様化する子育て支援ニーズに対応する支援の展開、その現状・課題・展望について理解する。 県内自治体の子ども・子育て支援、次世代育成支援に関する調査・計画の企画・立案に関わった教員の実務経験を活かし、具体的な事例を取り上げ解説し、子ども家庭支援についての在り方を説明する。		
授業計画	第1回 講義概要説明、福祉系科目の体系・本講義の概要 本講義の概要、評価方法、講義計画などオリエンテーションを行う。 併せて、本講義と他の科目との関連についての説明を行う。 【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】説明内容について要約し、他の科目との関連についてノート等に整理する。(2時間) 第2回 なぜ「子ども」「家庭」の支援が必要なのか？誰にどのような支援が必要なのか？(子ども家庭支援の意義と必要性、目的と機能、内容と対象) 「子ども」にとって「家庭」とは何か、子育て・保育において子どもと保護者を支援する意義は何か、なぜ必要なのか、などについて学ぶ。 また、子ども家庭支援は誰に対し、どのような支援を行うのか、その対象や内容について学ぶ。併せて、なぜ保育士が子ども家庭支援を行うのか、支援を行う際に求められる専門性と何か、などについて学ぶ。 【事前学習】少子化」「子ども」「家庭」「子育て支援」「児童虐待」などをキーワードに、子どもと家庭に関する新聞・雑誌・ネット記事等を収集・整理する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 第3回 子ども家庭支援はどのような成り立ち・仕組みをもっているのか？(子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進) 現在の子育て・保育では、どのような社会状況の影響を受けているのか、そして子ども家庭支援がどのようにして社会的に必要と考えられるようになってきたのか、子ども家庭支援の取り組みに関する社会的な動きや法令・制度等の動きはどのようになっているのか、などについて学ぶ。 【事前学習】テキストに出てくる子育て支援に関する諸法令について、原文を書籍・ネット等で通読しておく。必読の法令については、第2回で指示する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 第4回 なぜ保育士が家庭支援に関わるのか？(保育士の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義、保育士に求められる基本的態度) 子育て・保育に課題を抱える家庭には、課題が生じるさまざまな背景がある。そうした家庭の支援にあたり、保育士が関わることにはどのような意味があるのか、そして支援にあたって求められる専門性とは何か、支援にあたっての基本的態度はどのようなことがあるか、などについて学ぶ。 【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 第5回 さまざまな家庭をどう支援していくのか？(子どもの育ちの喜びの共有、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援) 支援を必要とする家庭には多様なニーズがある。しかし、どのようなニーズに対応するにせよ、ほぼ共通して取りうる支援の考え方・手順・方法は何か？さまざまなニーズを抱える家庭を支援するにあたり、基礎的な家庭支援の考え方や基礎的な方法について学ぶ。		

	【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間)
第 6 回	社会資源とは何か？(子育て家庭の福祉を図るための社会資源、地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力) 家庭支援にあたっては、地域住民とのつながりや公的機関など、さまざまな社会資源の活用が重要である。社会資源とは何か、またどのように社会資源を活用して支援を行っていくか、などについて学ぶ。
第 7 回	【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 保育所等に通う子どもの家庭への支援とは何か？(保育所等を利用する子どもの家庭への支援) 保育所等に通園している子ども・保護者への支援はどのように行うのか、日常の保育・教育活動の中でどのような取り組みが行われているのか、事例を通して学ぶ。
第 8 回	【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 地域の子育て家庭への支援とは何か？(地域の子育て家庭への支援) 地域の中には、家庭保育を行っているなど保育所等を利用していない親子もいる。そうした家庭の子育てを支援とはどのようなものか、事例を通して学ぶ。
第 9 回	【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) さまざまな事情をもつ家庭をどう支援するか？(家庭の状況に応じた支援) 家族のあり方に対する考え方は多様になった。また、働き方の変化や国内外の人の移動も激しい。こうした社会の動きと連動して、さまざまな事情・背景をもつ家族がいる。では、具体的にどのような家庭の形があり、それらの家庭はどのような事情・背景をもっているのか、どのような考えの下に支援を行うのか、家庭の状況に応じた支援について、事例を通して学ぶ。
第 1 0 回	【事前学習】新聞記事・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) ひとり親家庭への支援とは何か？(家庭の状況に応じた支援) ひとり親家庭支援については、近年、父子家庭への支援の拡大や就労支援を核とした自立支援の強化など、さまざまな変化が起きている。ひとり親支援制度の概要を学ぶとともに、ひとり親への家庭支援の必要性について理解を深める。ひとり親家庭に特化した支援とその他の子育て支援や福祉施策等の連携はどのようなものがあるのか？ひとり親家庭の親子が安定した家庭生活を営むために活用できる社会資源にはどのようなものがあるのか、事例などをもとに学ぶ。
第 1 1 回	【事前学習】テーマに関連する新聞・雑誌・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 障害のある子どもがいる家庭への支援とは何か？(家庭の状況に応じた支援) 障がいのある子どもに特化した支援とその他の子育て支援はどのように連携することができるか、両者の連携にはどのような課題や可能性があるのか、連携をすすめ、障がいのある子どもと保護者の地域生活を支えるために活用できる社会資源はどのようなものがあるかについて学ぶ。
第 1 2 回	【事前学習】テーマに関連する新聞・雑誌・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間) 外国にルーツを持つ家庭、生活困窮を抱えている家庭、その他支援を必要とする家庭にはどのようなものがあるか？(家庭の状況に応じた支援) 外国からの定住者等、外国にルーツをもつ親子は、言葉や生活習慣・親子関係の考え方など文化的な違いなど、日本での子育てにさまざまな課題を抱えることがある。また、生活保護や「ワーキングプア」「アンダークラス」などの言葉に代表されるように経済的な困難を抱えている家庭も少なくない。子育て・子育てに関して支援を必要とすると考えられる家庭について、事例を通じて学ぶ。
	【事前学習】テーマに関連する新聞・雑誌・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。(2時間) 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。(2時間)

第13回 第14回 第15回 第16回	子どもの貧困とは何か？（家庭の状況に応じた支援、子ども家庭支援に関する現状と課題） 近年、「子どもの貧困」が社会問題として注目されている。しかし、「子どもの貧困」は「保護者の貧困」が背景にある。とりわけ、沖縄では子どもの貧困が深刻といわれており、行政・民間双方でさまざまな取り組みがなされている。沖縄の家庭が抱える子育て・子育ての課題について、事例を通じて学ぶ。 【事前学習】テーマに関連する新聞・雑誌・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。（2時間） 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。（2時間） 要保護児童がいる家庭への支援とは何か？（要保護児童等及びその家庭に対する支援） 「要保護児童」とは、文字通りにいえば、保護を必要とするこどもである。例えば、虐待を受けている子どもなどが「要保護児童」にあたる。児童虐待はどのようなことが原因として起こるのか？児童虐待の予防や虐待を受けた子どもの家庭復帰などにおいて、家庭支援はどのようなことが求められているのか？児童虐待と家庭支援の関係について考える。児童虐待の予防・早期発見・保護などにおいて、地域の子育て支援活動はどのような役割を担うことができるのか？事例を通じて学ぶ。 【事前学習】テーマに関連する新聞・雑誌・ネット記事等のスクラップとその要約・感想を作成する。（2時間） 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。（2時間） これまでの子ども家庭支援の成果・課題は何か？（子ども家庭支援に関する現状と課題） これまでの子ども家庭支援については、さまざまな取り組みが行われてきたが、その成果と課題を振り返り、国内外の事例などと併せて考える。 【事前学習】新聞・雑誌・ネット記事等、国内外の子育て支援事例について資料収集をする。（2時間） 【事後学習】講義内容について要約し、それを基に他の受講生とディスカッションする。（2時間） 期末試験
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	・松本ほか編著『実践子ども家庭支援論』ななみ書房、2019。 その他、適宜講義内で資料を配布する。
参考書	・厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 ・厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 ・文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 ・文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 については、通読しておくこと。 ・山縣、柏女他編著『社会福祉用語辞典』第9版、ミネルヴァ書房、2013。 ・中央法規編集部編『社会福祉用語辞典』6訂、中央法規、2012。 ・大豆生田・三谷ほか編著『最新保育資料集』ミネルヴァ書房 その他の参考資料については、講義中で紹介する。
評価方法	評価は出欠状況・レポート・試験の成績等をもとに総合的に評価する。 評価のおおよその配点は、 ・試験（選択式）：40% ※講義内容に基づき設定した設問について、論述式で回答する。 ・レポートまたは試験（論述式）：40% ※提示するテーマ・条件でレポートを作成する。 ・その他：20% ※講義毎のコメントカード、講義中で課す小課題の提出、質問、発表、授業態度など
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。

履修上の注意	①レポートや小課題等の提出期限は厳守すること。 ②試験は原則論述式で行うので、日ごろから新聞記事等を読み、感想をまとめるなど、「意見を書く」練習をすること。 ③教科書<を>勉強するのではなく、教科書<で>勉強するので、日ごろから自主的な学習を心がけること。 ④講義中の私語・携帯電話は厳禁とする。講義の妨げとなる場合は、退席を命じ、欠席扱いとする。 ⑤欠席する場合は、必ず欠席届を事前または事後に提出すること。公欠以外でも事情を証明する資料添付が望ましい。 ⑥出席は評価の前提であるため、原則として、出欠に関する質問には回答しない。学生便覧等の規定に従い、出席日数が不足した場合、自動的に評価の対象外（不可）となる。 ⑦掲示版・Active academy・メールなどは必ず確認すること。
オフィスアワー	毎週○曜日 ○限 西研3-6（宮平研究室） ※時間割が確定次第通知する。 ・上記以外の時間でも、対応可能な場合は質問・相談に応じます。 ・逆に、オフィスアワーであっても、業務の都合で不在となる場合もあります。 ・メールでの質問の場合、m-takao@ocjc.ac.jp までメールを送信してください。 メール送信の際は、一般的なビジネスメールのマナーを意識してください。
課題に対するフィードバック方法	・レポート・試験については、回答例の配信を行う。 ・レポート・試験答案・提出物等については、メールボックスへ返却する。 ・コメントペーパーや講義内での質問は、その場・もしくは次回講義内で回答する。

学校法人沖縄キリスト教学院 役員等名簿

【理事会】

2025 年 6 月 11 日現在

役職	氏名	選任区分	任期	担当する職務内容 や期待する役割	学外者
理事長	金 永秀	1 号理事 学長	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		
理 事	城間仙子	2 号理事 理事会	2025. 6. 11～ 2029. 6 月	教学支援担当	
理 事	高嶺 豊	2 号理事 理事会	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
理 事	具志堅篤	3 号理事 日本キリスト 教団沖縄教区	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
理 事	我那覇健	4 号理事 評議員会	2025. 6. 11～ 2029. 6 月	財務担当	○

【監 事】

2025 年 6 月 11 日現在

役職	氏名		任期		学外者
監 事	上江洲由正		2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
監 事	友利健太		2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○

【評議委員会】

2025 年 6 月 11 日現在

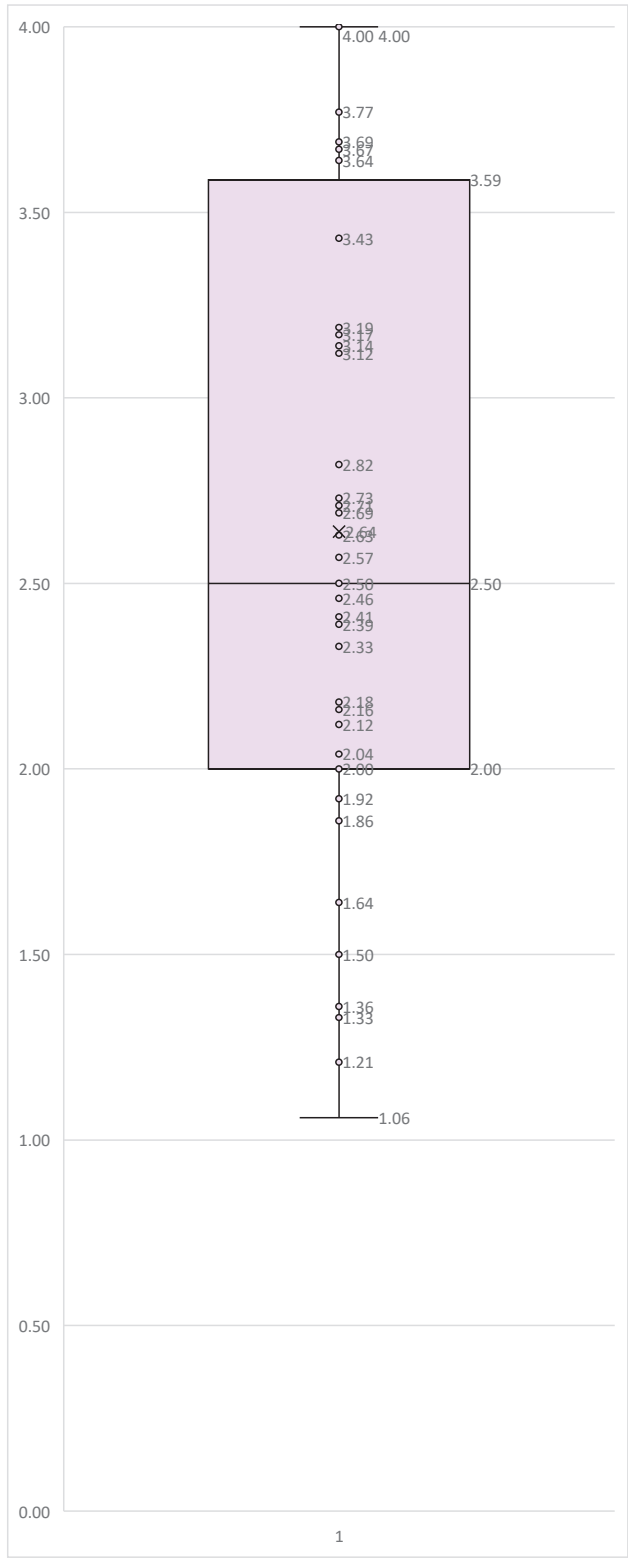
役職	氏名	選任区分	任期		学外者
評議員	上地恵龍	1 号評議員 法人職員	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		
評議員	新垣友子	1 号評議員 法人職員	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		
評議員	岩崎良亮	2 号評議員 卒業生	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
評議員	砂川久美子	3 号評議員会 学識経験者	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
評議員	当山勝利	3 号評議員会 学識経験者	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
評議員	小岸弘和	3 号評議員会 学識経験者	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○

【会計監査人】

2025 年 6 月 11 日現在

	氏名		任期		学外者
	田里友治		2025. 6. 11～ 2026. 6 月		○
	賀数紀之		2025. 6. 11～ 2026. 6 月		○

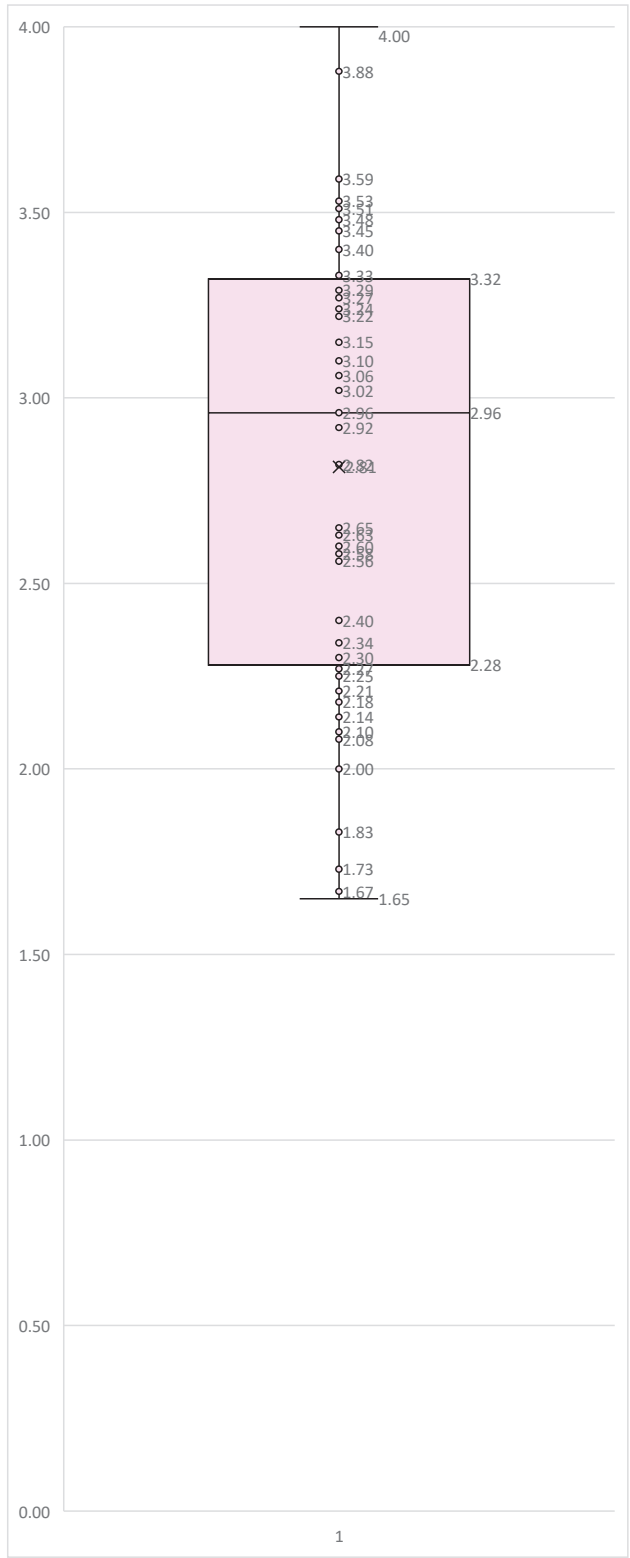
■2024年度 年間GPA 箱ひげ図



■説 明

対象 ： 2024年度 第2学年 学生		
対象学生数	48	人
GPA3.0以上	17	人
GPA2.0以上3.0未満	21	人
GPA1.0以上2.0未満	10	人
GPA1.0未満	0	人
GPA最大値	4.00	
GPA最小値	1.06	
GPA平均値	2.64	
GPA中央値	2.50	
下位GPA1/4のGPA (A)	2.00	
※第1四分位		
(A)以下の人数	13	人

■2024年度 年間GPA 箱ひげ図



■説 明

対象 ： 2024年度 第1学年学生		
対象学生数	60	人
GPA3.0以上	28	人
GPA2.0以上3.0未満	27	人
GPA1.0以上2.0未満	5	人
GPA1.0未満	0	人
GPA最大値	4.00	
GPA最小値	1.65	
GPA平均値	2.81	
GPA中央値	2.96	
下位GPA1/4のGPA (A) ※第1四分位	2.28	
(A)以下の人数	16	人

設置する学部・学科

沖縄キリスト教短期大学

英語科（2024 年度募集停止）

地域こども保育学科